

# 環境教育「まず、今できることから」

## 歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会  
 編集者：代表幹事 高橋賢一  
 連絡先：市民活動支援センター  
 尾張旭市渋川町三丁目5番地7  
 (渋川福祉センター内)  
 TEL 0561-51-2878



2021/01/17

日時 令和3年1月17日  
 場所 尾張旭市渋川福祉センター3階  
 研修室  
 消毒液・マスク、  
 体温計、  
 等コロナ禍での  
 対応を厳格  
 に実施して  
 いただきました。  
 環境フォーラム  
 フラスチクと環境問題  
 森と川と海のメカニクス



今回の参加人員は緊急事態宣言もあり準備していたボスターも駆逐してしまいましたが、一般の方の参加が密着する行政の環境課長及び企画課の2名を中心とした10名の参加者による

人間は、地球温暖化・森林破壊・自然破壊でとんでもないモノを引き出してしまった

- ・ウイルスに感染した野生動物が、住み家をなくし、エサを求めて人里に出てきた。
- ・稀少動物を捕獲しようとする人間が奥地に踏み込み、ウイルスを持ち帰った。
- ・地球温暖化で凍土の中にいたウイルスが地上に現れた。

アフリカで猛威をふるった「エボラ出血熱」、「エイズ」などが襲来。そして新型コロナウイルス……

意見交換

小学生から「ゆとり教育」から「生きる力」に指導要領が変わり、そのあたりが意見として聞かれました。今後環境を含めて子ども達に対して保護者を含めて対応の仕方が難しくなるのではないかと。

主幹様も「生きる力」で保護者先生も含めて「生きる力」であることも「生きる力」をつけることは非常に重要であると感じました。是非とも「生きる力」を育てる育み方を身に付けて、子ども達の成長に貢献したいです。

「生きる力」の指導をどうするか、マスコミも含めて考える。



2021/01/17

